

令和8年度 秋田県立衛生看護学院 保健科推薦入学試験問題

小論文

解答は解答用紙に記入すること。

問題

次の文章を読み、支援対象者との関係構築について、あなたの考えを述べなさい。

令和6年度から、多くの自治体がこども家庭センターの設置あるいは準備に入っている。平成28年度児童福祉法等改正にて、自治体は保健と福祉双方に各々の機能を持つセンターを設け、「相談機能」を位置づけた。(中略)ガイドラインにも「傾聴・共感・承認」が支援対象者との関係構築とその維持の必須条件と書かれている。

これが意外に難しい。批判せず、査定せず、指導しないと「わかっている」が、懸命に聴いても対象者の言い分をインプットしているだけで「何もしてくれない」と思われるのではないかという支援者自身の不安が増大し、自分の不安解消のために「つい」指導をしてしまいがちである。記録のために、的確に聴取することも大切ではあるが、それはヒアリングであり、傾聴や共感とは微妙に違う。真に共感力を上げるには、聴く力が受動的な行為ではなく、能動的な行為であることを理解する必要がある。

対象者が言わんとすること、あるいはそれをどんな気持ちで話しているのかを慮る、または理解しようとし、大事などころでの相槌や話の語尾やキーワードを繰り返して、言語化された話題の奥深い部分が引き出せられるように対話をつないでいけるのが共感的対話である。

わかりやすくいうと、自分がどう感じるか(自分もそうだ、わかる)という同情/同感とは別物で、対象者がどう感じるのかがわかることである。ここで駆使される聴く力には、本音を言える仲間を得るというバディ効果や、ありのままを受け入れられる体験を通して心の中の不安や緊張が和らいで少し余裕ができるリラックス効果、これらのケア効果に加えて、安全な場で話すことは内省を促し自身の現実を受け入れて、サポートを得る力(受援力)が引き出される効果があると言われ、能動的ケア方法である。(後略)

令和6(2024)年9月9日 第2273号 週刊 保健衛生ニュース『ヘルス・アイ』より

- 1) 横書きとする。
- 2) 字数は960字から1,020字とする。